

日本での働き方

1 研究の目的

高校2年生となり自分の将来について考える機会が増えた中で、家族と話をしているうちにこれからの日本では終身雇用は減少し、働いていく中で転職する人が増えるだろうという話になった。そこで、実際の今の日本の雇用・転職状況はどうなっているのか、どのような働き方なのかこの機会に調べてみようと思いこのテーマにした。

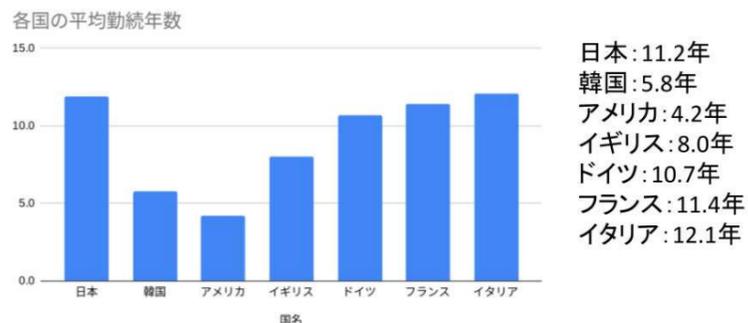
2 研究方法

検証①日本と海外の転職事情の違いについてインターネットを用いて調べる

検証②日本国内の転職事情についてインターネットを用いて調べる

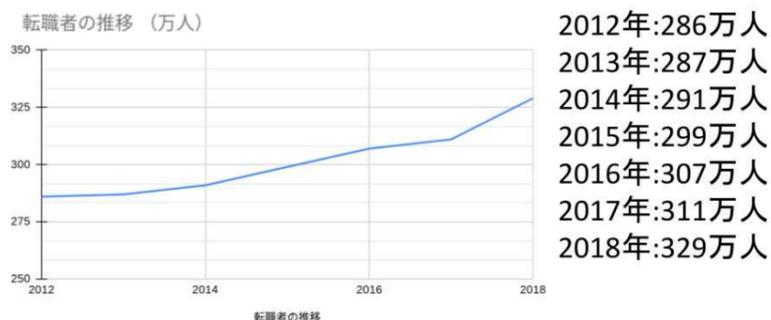
3 結果

検証① 日本と海外の平均勤続年数の比較

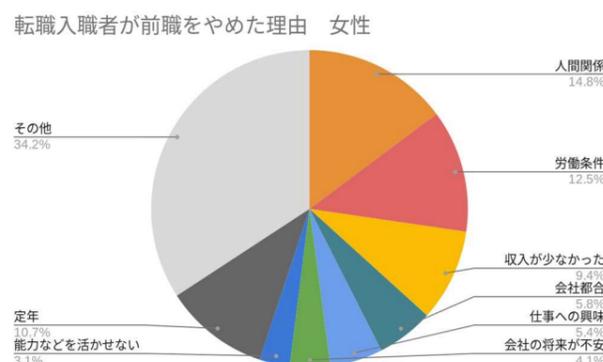
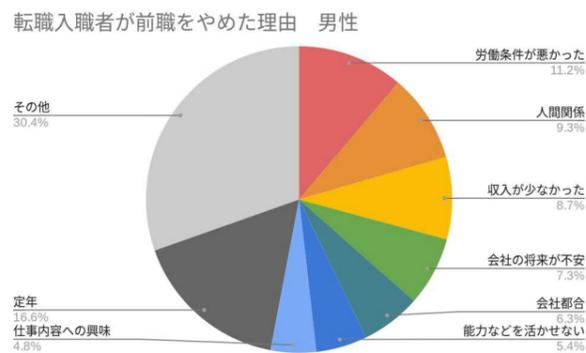


このグラフから、
・韓国やアメリカと比べると日本は平均勤続年数が長く、アメリカの約3倍である。
・ヨーロッパの国々とはあまり違いが見られないことが読み取れる。

検証② 日本の転職者数の推移



このグラフから、
日本の転職者数が年々増加していることが読み取れる。



このグラフから、
・男性の理由1位が労働条件、女性の理由1位が人間関係である
・多少の違いはあるが、前職をやめた理由において男女間の違いはあまりないことが読み取れる。

4 考察

検証①から、日本は韓国やアメリカと比べて平均勤続年数が長く、他の国よりも転職しにくい国であることがわかる。現在の日本では終身雇用制度や年功序列制度が導入されているのに対して、アメリカでは成果主義が一般的であることや、日本が少子高齢化であることなどがこのデータの違いの要因であると考えられる。また、ヨーロッパの国々とはあまり違いが見られなかったため、それぞれの地域の昔の文化等によって違いが生まれるのではないかと思った。

検証②からは、日本も近年転職しやすい社会になってきていることがわかる。前職をやめた理由としては男女間であまり違いはなく職場環境の理由が多いので、働く上で最も重要なことなのだろうと感じた。

5 まとめ

今回の調査から、これからの日本では終身雇用ではなくなり転職が当たり前の社会になる傾向があることがわかった。ヨーロッパの国々も転職は盛んでは無いようだったが、日本とは社会の仕組みや働き方が違うので、共通点がないかなどもっと詳しく調べてみたいと思った。私は将来より良く働けるように、やりがいを持って仕事ができるように今回の調査もふまえながら働き方を考えていきたい。

6 参考文献

厚生労働省 令和3年雇用動向調査結果の概況
データブック国際労働比較2018